



青刈作物の刈取回数と刈取高さ

問 青刈作物の内で、青刈大豆のように一回刈で多収を得るものもありますが、スーダングラス、テオシントの様に数回刈取るものは、何回刈が最も多収を得るでしょうか。また再生力の点から、何刈の高さから刈取った方が有利でしょうか。

(鳥取県境港市・木村菁壽)

答 スーダングラス、テオシントの刈取回数は気候温度により、異なり貴地方について述べますと、スーダングラスは草丈一・五〜一・八呎に達して刈取る三回刈が最も青刈収量多く、一回で約六〜七トありますから、年間で約二〇ト収穫できることになります。

スーダングラスの刈取りの高さは、地際より七〜一〇吋が適当で、地際から分ケツ再生してくる植物なので、高く刈っても意味がなく、むしろ密条播した場合には高刈りは再生を阻害する結果となります。テオシントの刈取回数については、未だ

試験の例が少なく、千葉県、宮崎県、熊本県では二回刈が最も多収を示しており、一方、静岡県では五回刈も行なっている例があり、適正な判断を下しかねる現状ですが、草丈一・七〜二呎に達して刈取る二〜三回刈が有利と思われます。青刈収量は一回で五〜七トとみて、年間に一五〜二〇トくらいでしょう。

テオシントの刈取りは、初回には約一五割残せば良いのですが、二〜三回刈になると、茎立ちして生長点が上昇してくるので、刈取高さをだんだん高め、二〇〜三〇吋にしなければなりません。厚まきして分けつが少ない場合は、茎立ちが早いから、初回刈が遅れると五〇割くらいの高さで刈らねばならぬこともあります。要するに、再生を早めるためには芯芽を切らぬように心がけるべきです。最終刈取りは地際から行ないます。

なお、同類の青刈作物、ソルゴーの刈取りについてつけ加えますと、草丈約二呎の頃に刈る三回刈が良く、収量は年間に二五トくらい。刈取り高さはスーダングラスと同じく七〜一〇割残すのが最適です。また、カウピー、ツルメメ等も二〇〜二五割高さに刈れば再生してきます。

以上は多収をあげるための刈取回数と、刈取高さですが、適地(肥沃地、旱魃のおそれのないところ、灌水のできるころ)を選び、十分な施肥(堆厩肥二ト、硫酸四〇キ、過石四〇キ、塩加一五キ、追肥硫酸

一五キ)を行ない。旺盛な生育をさせることが肝心です。

ルタバガとナタネの見分け方

問 ルタバガとナタネは種子も殆ど同じで、また発芽してもルタバガの根が肥大するまで判別し難いものですが、初期の見分け方についてお知らせ下さい。

(山形県北村山郡大石田町・長瀬由太郎)

答 ルタバガとナタネは非常に近い類縁関係にあり(細胞内の染色体数が同じ)、とくに幼植物時代には容易に判別しがたいもので、決定的な差異がなく、両者を並べ比較し、注意深く観察しない限り、判定することは困難です。

それぞれの一般的な特性は次の通り。

特性	作物
育種時の生	ルタバガ
葉形	やや違い
葉の欠刻	しゃくし型
草姿	葉縁に均等にあらる
根部の肥大	やや開張
根形	本葉七〜八枚より肥大する
花の色	不正球形
	黄金色
	黄色
	短い
	やや長いしゃくし型
	葉先にやや少ない
	下部は疎で大きい
	直立
	肥大せず
	短毛半蒴根
	黄色

その他、葉色はいずれも青緑色を呈し、葉面は蠟質で被われており、見分けがつかずません。

本葉七〜八枚頃に至れば、ルタバガは根が肥大してくるので判別でき、殊に紫色品

種であれば緑色品種より早期にわかります。といっても四〜五枚頃には、いずれも根の表皮が紫色を帯びているため見分けられず、その表皮が顔化してからということになります。

次に、右のナタネは現在普及している洋種ナタネを指した場合について述べたわけですが、従前採油用に使われていた和種ナタネは洋種ナタネと形態が可成り異なり、その草状が箆型であるため、別名箆ナタネとも称されており、葉色は緑色、葉は小型で、蠟質がやや少なく、極早生、草丈が低いなど、ルタバガと容易に見分けることができます。

また近年、飼料用合成ナタネとして、C・Oが登場し、広く普及していますが、C・Oは甘藍と白菜との雑種から生まれたナタネで、洋種ナタネと非常によく似ており、これも見分けるのに本当に苦労いたします。

しかし、C・Oの生いたちが、甘藍と白菜との雑種後代植物から選抜されてきたものであり、世代が比較的若いいため、整一性がやや不良で、甘藍のように葉形が丸みを帯び欠刻の少ないもの、白菜のように葉色が緑で蠟質の少ないものなど、明らかな特性が認められます。最近ではC・Oにもいくつかの品種が作られ、それら品種間にかなりはつきりした特徴が認められますから、ルタバガと見分け易い品種、見分け難い品種があります。